

正岡子規著「病牀六尺」ワイド版岩波文庫、岩波書店 1993年4月7日刊を読む

「病牀六尺—家庭教育の大切さ—」

1. (1) ○家庭の教育といふ事は、男子にも女子にも必要である。
(2) 家庭の教育は知らず知らずの間に施されるもので、必ずしも親が教へようと思はない事でも、子供は能く親の真似をして居る事が多い。
(3) そこで家庭の教育はその子供の品性を養ふて行くのに必要であるが、また学校で教へないやうな形式的の教育も、極些細な部分は家庭で教へられるのである。
2. (1) 例をいへば子供が他人に対して、辞誼じぎをするといふ事を初めとして、来客にはどういふ風に応接すべきものであるかといふ事などは、親が教へてやらなくてはならぬ。
(2) 殊ことに最も大切なる一家の家庭を司つかさどつて、その上に一家の和樂を失はぬやうにして行く事は、多くは母親・父親の教育如何によりて善くも悪くもなるのである。
(3) ところが今までの日本の習慣では、一家の和樂といふ事が甚だ乏しい。
3. (1) それは第一に一家の団樂といふ事の欠乏して居るのを見てもわかる。
(2) 一家の団樂だんらんといふ事は、普通に食事の時を利用してやるのが簡便な法であるが、それさへも行はれて居らぬ家庭が少くはない。
(3) 先づ食事に一家の者が一所に集まる。食事をしながら雑談もする。食事を終へる。また雑談をする。
4. (1) これだけの事が出来れば家庭は何時までも平和に、何処までも愉快であるのである。
(2) これを従来いつこうの習慣に依つてせぬといふと、その内の者は一家団樂して楽しむべきものであるといふことを知らずに居る。
(3) そこで家庭の団樂などいふ事をする事を知らないで、殺風景な生活をして居る者がある。
5. (1) 一家の団樂といふ事を、無理に遣らせて見ても、一向に何らの興味を感じぬのさへある。
(2) かやうな事では一家の妻たる者の職分を尽したとはいはれない。
(3) それ故に家庭教育の第一歩として、先づ一家団樂して平和を楽しむといふ事位から教へて行くのがよからう。
6. (1) 一家団樂といふ事はただ畜ただに一家の者が、平和を楽しむといふ効能があるばかりでなく、家庭の教育もまたこの際に多く施されるのである。

(2)一家が平和であれば、子供の性質も自^{おのずか}ら平和になる。

(3)父や母や兄や姉やなどの雑談が、有益なものであれば子供はそれを聴いてよき感化を受けるであらう。

7. (1)既に雑談といふ上は、むづかしい道德上の議論などをするのではないが、高尚な品性を備へた人の談ならば、無駄話のうちにも必ずその高尚な処を現はして居るので、これを聴いて居る子供は、自ら高尚な風に感化せられる。

(2)この感化は別に教へるのでもなく、また教へられるとも思はないのであるが、その深く沁^しみ込む事は学校の教育よりも更に甚だしい。

(3)故に家庭教育の価値は或る場合において学校の教育よりも重いといふても過言ではない。

P110 ~ 112

<コメント>

正岡子規の晩年の名著「病牀六尺」の家庭教育論は余り知られていない。是非、子供たちだけでなく、保護者にもご紹介し、参考にさせていただきたい。

2021年5月13日(木)林明夫